

印西市環境審議会からの意見まとめ

○基本目標1（自然環境） 参照 P16~P20

緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

1-1 有害鳥獣対策

- 1 有害鳥獣の捕獲数が増加傾向にあります。住民の脅威や農作物被害減少のため、総合的な野生動物管理（個体数と分布、捕獲目標数とその手法、関連する人材の育成等）を検討されたい。（藤田委員）
- 7 環境白書19ページの表題「生きものと共存しよう」を実践するため、農作物に被害をもたらす動物といえども、なるべく殺さない方法を追求してほしい。（坂本委員）
- 10 カミツキガメやイノシシの捕獲は進めてもらいたい。（山本委員）

1-2 水辺、森林、里山保全とその維持

- 2 里山保全とその維持管理。（阿部委員）
- 3 里山自然（市街地にある里山的自然も含む）の市民への紹介。（阿部委員）
- 5 生物多様性の観点から、森林や里山の保管管理を行わないと自然環境や生物の多様性に問題が発生するであろう。児童・生徒に森林や里山が大切なことを教育するために森林教育を行うことも必要である。（岩井委員）
- 6 里山の保全と維持管理、山林の荒廃防止対策に努められたい。（片倉委員）
- 9 水辺や里山の環境を守るため引き続き不法に積み上げられる残土や投棄される廃棄物の監視を続けていただきたい。（山本委員）

1-3 都市と自然の調和

- 8 都市としての成長、発展とともに、豊かな自然を有している印西市の魅力を引き続き発信してほしい。（渡邊委員）

1-4 諸提案

- 4 印旛沼には自転車道がありますが、夏に雑草が生い茂るところは見えず、狭くなり危険な自転車道になっています。自転車のすれ違いができない。（鈴木委員）
- 11 農地や里山の保全には、経済的なインセンティブが必要と考える。農業経営の法人化を進めるべきと思う。（山本委員）
- 12 P20で「近年では野生動物による生活被害や農作物被害が増えていることから・・・」可能であれば、農作物被害額等の標記により、増加傾向を具体的に示してほしい。（鶴岡委員）

○基本目標 2 (生活環境) 参照 P21~P27

安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

2-1 河川の水質浄化

- 1 水質の環境基準が未達成な河川や湖沼の流域について、下水道の整備や高度合併処理槽導入を更に推進し、継続的に基準内に収まるよう努力されたい。(藤田委員)
- 3 まだ昔の家は浄化槽の設置のない家もあります。市としても調査をし、設置するよう働きかけも必要ではないかと思えます。(鈴木委員)
- 8 P22 特に師戸川の BOD 濃度が平成 28 年度、29 年度と環境基準を超過していることを踏まえ、引き続き水質改善のための更なる取り組みを願いたい。(鶴岡委員)

2-2 生活道路

- 5 市道や住宅街の生活道路について、車両の通行による排出ガス・騒音・振動を抑制し、さらに歩行者の安全を確保する為に、関係機関との調整に努められたい。(片倉委員)
- 6 印西市内で初めての交通規制「ゾーン 30」が 2019 年秋、高花地区に実現する予定。ほかの地区でも適用されるよう、警察と市が連携して進めてほしい。(坂本委員)

2-3 放射性物質

- 7 福島第一原子力発電所の事故による手賀沼や印旛沼水系の底質の汚染や、生物学的濃縮と思われる汚染もまだあるようです。放射性物質の汚染については、引き続き関心をもって情報提供願いたい。(山本委員)

2-4 薬剤散布

- 2 公園緑地や街路樹に対する薬剤は、最小限使用に限って欲しい。また、そのアレルギー対策について、努力して欲しい。(阿部委員)

○基本目標 3 (都市環境) 参照 P28~P34

都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

3-1 自然景観、自然環境

- 1 「印西市景観計画」が策定されました。今後具体策の検討が進められますが、自然景観と共に貴重な文化財の魅力の発信に努められたい。(藤田委員)
- 2 里山マップを活用し、印西市の自然環境を市民に啓発して欲しい。(阿部委員)

3-2 ゴミ捨て、クリーン活動

- 3 道路脇や交差点における信号待ちなどにおける、空き缶やゴミの投げ捨てが多くみられる。ゴミ捨て禁止の掲示板や市民への啓発をおこなう必要があるのではないかと。(岩井委員)
- 5 クリーンいんざいなどの活動をさらに推進いただきたい。(山本委員)
- 6 ポイ捨て禁止などのマナー向上についても広報願いたい。運転マナーなども含めてマナーでも日本一の街を目指したい。(山本委員)

3-3 空き家対策

- 4 空き家が増えているようです。廃屋のようにならないうちに税制など検討願いたい。(山本委員)

○基本目標 4 (地球環境) 参照 P35~P39

低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

4-1 ゴミ減量

- 2 1人1日当たりのごみ排出量の目標値(696g)を達成するため、ごみ減量の基本である2R(リデュース(発生抑制)、リユース(再利用))の具体的な施策を強力に推進されたい。(藤田委員)
- 4 プラスチックの使用量を減らし、ゴミの削減や減量や減量化を推進していくべきである。特にマイクロプラスチックが地球環境に及ぼす影響が問題である。(岩井委員)
- 5 ごみの減量化・資源化の推進に向け、さらに普及・啓発活動に努めていただきたい。(渡邊委員)

4-2 省エネと再生可能エネ

- 1 市民生活に起因する温室効果ガス総排出量抑制のため、省エネルギーの推進と再生可能エネルギー活用（太陽光発電設備の発電単価等）の情報発信を続けられたい。（藤田委員）
- 3 太陽光発電も自然環境と調和した設備にするべきだと思います。自然破壊しないよう。（鈴木委員）
- 6 なるべく車を使わないで済むよう「ふれあいバス」の利便性を高めてもらいたい。（山本委員）
- 7 引き続き住宅用太陽光発電システムや温水器の補助を進めて頂きたい。（山本委員）
- 8 市では環境推進市民会議の協働し、環境フェスタやイベントを開催し環境家計簿の普及促進を進めているとあるが、一般家庭はもちろんのこと公共施設や道路防犯灯、街灯などのLED化についても積極的に進めてほしい。（室井委員）

○基本目標5（人づくり） 参照 P40~P42

環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して

5-1 人材育成

- 3 各小中学校での環境学習の取組が将来、地域で活かされるように、提言の機会を設け、さらなる人材育成に努められたい。（片倉委員）
- 4 将来、環境を守る使命を果たせる大人に育つよう、子供たちに「命の尊さ」を学校や家庭で教えてほしい。（坂本委員）
- 6 子供たちが自然に親しめるような野外活動の推進をお願いしたい。小・中・高の理科クラブや生物部に発表の場を作ると良いと思う。植生などの環境調査に子供たちの力を活用できるように考えて頂きたい。（山本委員）

5-2 市民の環境意識の向上

- 1 環境フェスタや公民館まつり等における環境学習の充実と市民に対する啓発を更に進めて欲しい。（阿部委員）
- 5 学校教育や社会教育との連携をさらに充実させ、市民の意識を向上させる機会を増やしてほしい。（渡邊委員）

5-3 森林譲与税

- 2 森林や里山の所有者に森林の管理をお願いし、また所有者が不明な里山等はボランティアなどの活動団体の育成をおこなうことが望ましい。森林環境譲与税を有効に活用するべきである。（岩井委員）

基本目標 2 (生活環境) 参照 P21~P27

2-1 河川の水質浄化

- 4 湖沼の水質浄化については、近隣市町村の連携が必要である。印西市は師戸川の BOD 濃度の改善策や問題点を早急に調査する必要があるのではないか。(岩井委員)

